

トルクメン通信 第11号

2018年5月24日 作成

Salam! 2018年もそろそろ6月に突入です。時が経つのはとても速いですね。忘れ者なので前回の発行からかなり時間が経ってしまいました…。今回は6年生の教科書制作とアシガバットにある建造物をご紹介しますと思います。

指導要領改定と6年生教科書制作 (2016年9月～2017年8月)

前回は5年生の教科書制作についてご紹介しました。急にいろんな話が降ってくるのと、この時期はトルクメニスタンの日本語教育自体が大きく変化していたときなので、作ることで精一杯の状況でした。なんだか分からないうちに終わってしまったように思います…。2016年9月から始まった6年生教科書制作では上級専門家の先生がいらっしゃったおかげで、少し余裕を持って教科書制作に取り組みました。あたふたしていたのは変わりませんでした…

2年目は、指導要領の改定から着手しました。まず、トルクメン語で書かれている指導要領の「骨組み」部分に何が書かれているのか理解すること、そして、他の外国語の指導要領や教科書を入手し、どのような方針に基づき、どのような言語教育を行おうとしているのか理解することから始めました。指導要領にはその国が目指す外国語教育の姿や方針が書かれており、教科書は指導要領に基づいて制作されるものです。国が外国語教育を通して何をしようとしているのかわからなければ、教科書を制作することができません。この作業で僕が気づかされたのは、その国における言語教育の位置づけや方針を知る重要性です。5年生の教科書制作時も、教育省から指導要領を見せてもらったのですが、内容を理解するといところまで正直意識が向いていませんでしたし、5年生の教科書を作るときは「まず作ること」しか頭になかったので、教科書制作を「言語教育政策」といった大きな枠組みで捉えることができていませんでした。今考えれば当たり前のことなのですが、その時の自分はそのような視点を持っていませんでしたし、すでにその視点を持って業務に当たっていた上級専門家の先生にトルクメニスタンの言語教育についていろいろと質問されるなかで、自分は何も知らなかったんだなということを実感させられました。

次に、各学年の到達目標と学習内容を決定しました。その際、2016年に公開された拡大版CEFRと年少者向けCEFRを参照しつつ、トルクメニスタンにおける日本語教育の位置付けや状況を踏まえ、到達目標を設定しました。学習内容については、トルクメニスタンにある外国語の教科書を参考に決定していきました。内容は下記の通りです。

以上の段階を経た後、教科書制作に入っていきました。5年生は5章構成でしたが、6年生は8章構成に変更しました。トルクメニスタンは4学期制のため、「1学期に2章ずつ進む」という授業進度の目安を示すためです。また、各課の内容も変更しました。主な変更点は次の通りです。

① 各章の目標を明示する

5年生の教科書では削除されてしまった各課の目標。トルクメン語で書いてしまうと内容が分かってしまうので、日本語で目標を掲載し、各章の最初に先生にトルクメン語で説明してもらうようにしました。

② 「単語導入」と「文型導入」を分ける

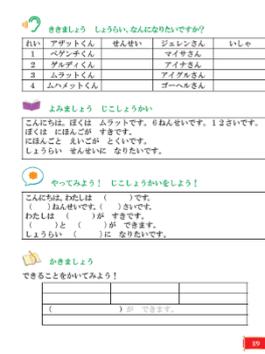
5年生の教科書では、「いいましょう」というパートで単語と文型の双方を導入していましたが、6年生では「ききましょう だいじなことば」で単語導入を行った後、「いいましょう」で文型導入を行う、という流れにしました。理由は次の通りです。まず、単語や文型はその課で繰り返し出てくるので、単語と文型の確実な定着に向け「単語導入」「文型導入」それぞれに時間をかけてもらうためです。次に、トルクメン人の先生方にとって教えやすくするためです。日本語を初めて教える先生方にとって、「単語導入」と「文型導入」が同じパートに入っていると、どのように教えてよいか迷ってしまうようで、中には「文型導入」⇒「単語導入」という順序で教えている先生もいらっしゃいました。そのため、両者を分け、先生方にとって教えやすい構成にしました。

③ 「よみましょう（読解練習）」「やってみよう（応用練習）」を入れる

「よみましょう」とは、その章のテーマに関する短いテキストを読むパートです。日本に関するテキストも入れ、日本について知ることができるようにしました。ただ、6年生が勉強している日本語は限られていますので、必要に応じてトルクメン語訳を載せました。教える際にも、「読めるようになること」よりも「知っている単語を見つけられるようになること」「日本について知ること」を重視してもらうようにしました。なので、パワーポイントなどでテーマの導入をしてから読む、テキストを先生がトルクメン語に翻訳してから読む、のような指導方法を取ってもらうようにしました。

「やってみよう」は応用練習を行うパートです。「応用練習」とは、例えば日付の言い方を学んだらトルクメニスタンの祝日を言ってみる、時間割の言い方を学んだら自分のクラスの時間割を言ってみるなどのように、その課の単語や文型を使って何らかの課題（タスク）を達成するための練習です。学んだ日本語を自身の文脈で使えるようになるために必要な練習です。5年生の教科書では、応用練習をあえて入れませんでした。先生方に自由に考えてもらおうと思ったからです。しかし、自由に応用練習を考え取り入れている先生はほとんどいないようでした。それは、「教科書に書かれたことはその順番通りに暗記しなければならない」という先生方の外国語学習習慣が影響していると考えられます。なので、「応用練習」と言われても、経験したことがないのでイメージがわからないのだと思います。そのため、「教科書に書かれたことは教える」という外国語学習習慣を利用し、6年生の教科書には「やってみよう」というパートを入れ、その課の目標に応じた応用練習を授業に取り入れてもらうようにしました。

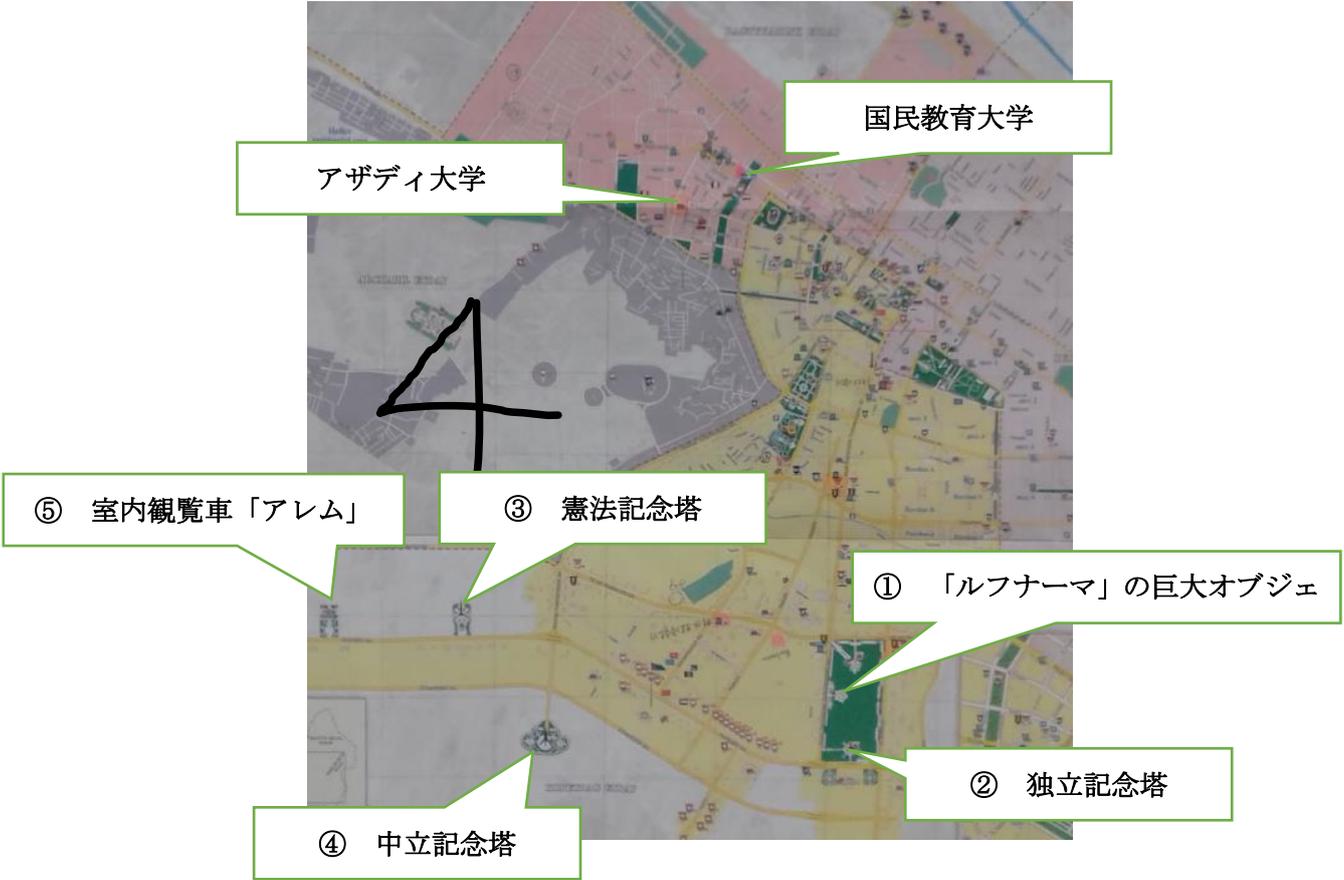
以上のような変更を加えて6年生の教科書は完成しました。しかし、この時も先生が日本語を教えている現場を見ながら作ったわけではありません。ようやく教育省からの許可が下り、実際の現場を見られるようになると、いろいろな課題や改善点が浮き彫りになってきました。それを踏まえて、現在は7年生の教科書を制作中です。その制作過程については、次号でお伝えします。



だい8しょうだい3か 「せんせいになりたいです」

アシガバットの不思議な(?) 建造物

アシガバット市内をバスやタクシーで移動していると、「これはいったい何だろう？」と感じる建造物を見かけることがあります。ということで、今回はアシガバットにあるちょっと不思議な建造物をご紹介します。もし、アシガバットに来る機会があったら見てみる価値があるかもしれません。ここで紹介した建造物は、市内を走る20番のバスに乗れば行くことができます。ただ、おおっぴろげに写真を撮ったりしていると警官に注意されてしまうのでご用心。



① 「ルフナーマ」の巨大オブジェ

「ルフナーマ」とは、前大統領が執筆した自叙伝です。前大統領の存命中は、全国民のバイブルのような存在だったようで、「ルフナーマ」を読むための授業もあったとも聞きました。ちなみに現大統領も自叙伝を出版しています。個人的にトルクメらしさ(?)を感じる建造物です。写真では分かりにくいですが、これは本ではありません。オブジェです。近くに警官がいたので、あまりうまく撮れませんでした…。



② 独立記念塔

トルクメニスタンは、1991年10月27日に旧ソ連から独立しました。文字通り、その記念に建てられた塔です。塔の前にある金の像は、前大統領の像です。市内にもいくつかあります。ちなみに毎年10月27日は「独立記念日」で休日なのですが、来年から「独立記念日」は9月27日に変更になるそうです！「独立記念日」って変更していいものなのか……。



③ 憲法記念塔

こちらは、憲法制定を記念して建てられた塔です。塔にある5つのマークは、トルクメニスタンの国旗にもあしらわれている5つの民族のシンボルマークです。ちなみに、このシンボルマークはトルクメンじゅうたんの模様にもなっています。



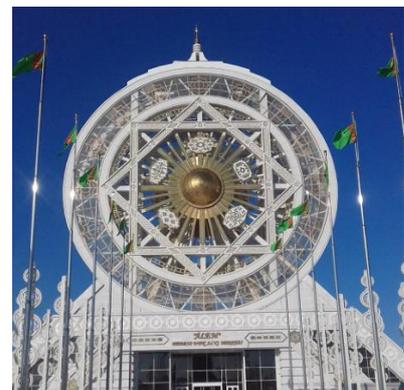
④ 中立記念塔

トルクメニスタンは1995年12月12日、国際連合から「永世中立国」として承認されました。それを記念に建てられた塔です。3本脚が特徴の塔です。僕は夜、この塔にエレベーターで上がったことがあるのですが、上からのアシガバットの夜景はとてもきれいでした。



⑤ 室内観覧車「アテム」

世界最大の室内観覧車だそうです。最初は「室内」と「観覧車」が僕の頭の中で上手く結びつかず、「室内に観覧車があったら『観覧』できないから『観覧車』の意味がないじゃん！」と思ったのですが、ちゃんと外の景色も見ることができます。年末になると、アテムの前に巨大なクリスマスツリーやイルミネーションが設置されます。



今回は6年生の教科書制作とアシガバット市内の不思議な建造物をご紹介します。最近仕事も落ち着き、やっと7年生の教科書制作に本腰を入れられます。気づけば帰国まで約3か月。「15号発行」を目指して、今後も引き続きトルクメン通信を発行していきたいと思えます。

国際交流基金日本語指導助手（トルクメニスタン派遣） 上原龍彦
ご意見、ご感想は [azady.uehara★gmail.com](mailto:azady.uehara@gmail.com) まで（★を@に変えてください）